生徒と「ともに語り、ともに考える」道徳授業を目指して

松原　好広（東京都八王子市立陵南中学校）

1　こんな授業が気になる

中学校の道徳授業では、資料とワークシートを同時に配布して、複数（４～６）の発問について、次から次へと記入させて発表させる授業が少なくない。

2　こんな授業をめざしたい

だれがやっても同じような授業（資料とワークシートを同時に配布して発表させる）ではなく、担任と生徒が、人生いかに生きるべきかを「ともに語り、ともに考える」授業をめざしたい。

3　私の道徳授業

（１）人間性の理解

人間は、良いとわかっていても、すぐに実践できない。悪いとわかっていてもすぐに改善できない。それは、「欲望」「無責任」「圧力」「恐れ」「義理」に流されるからである。人間は、心に矛盾を秘めて生きている。

（２）道徳授業の役割

人間は、同時に、道徳的価値の実現に向けて努力する存在である。道徳資料（読み物資料）から、なぜ主人公の心情が変化したのかを考え、人間は道徳的価値の実現に向けて、努力する存在であることに気付かせたい。

（３）道徳資料（読み物資料）の構成

資料に登場する主人公（登場人物）も、心に矛盾を秘めて生きている。しかし、いくつかのできごとを通して、心に変化が現れる。

心情	場面		心情	場面		心情	場面		心情	場面
A	A	できごとA →	B	B	できごとB →	C	C	できごとC →	D	D

4　指導案の作成手順

（１）資料のあらすじを理解するだけでなく、主人公の心情の変化を分析する。場合によっては、資料を他の資料に変更したり、一部を改善したりする。

（２）その時間の「ねらい」を考える。「ねらい」とは、「その時間、生徒に何を考えさせたいか」ということである。この「ねらい」を十分に検討することが大切である。

（３）資料の流れを場面ごとに分け、どの場面（主人公の心情の変化が明らかになった場面）が「ねらい」に一番迫れるかを考える。発問（中心発問）により「ねらい」に迫る。

（４）主人公の心情の変化が追えるように、他の場面についての発問を考える。ただし、あくまでも中心発問に時間をかける。

（５）「生徒に何を考えさせたいか」を常に意識しながら補助発問を駆使して、生徒の抽象的な発言を具体的に考えられるようにする。

（６）資料分析表を作成し、それを基に指導案を作成する。資料分析表には、「資料の流れ」「主人公の心の動き」「発問の構成」「指導上の留意点」をまとめる。

5　授業での留意点（生徒の心に響く中学校道徳授業　明治図書）

（1）指導過程

指導過程については、１単位時間をシミュレーションする。だいたいの時間配分は考えるが、「どこに重点を置くか？」を第一に考え、その時間を十分確保する。事前に、「自分がこういう発問をしたら、生徒はきっとこう答えるだろう」ということを徹底的に考える。

（2）発問

発問は、一問一答式ではなく、一人ひとりの考えを束ねていく。例えば、「Ａ君は、こう言っているけどＢさんはどうですか？」「Ｂさんは、こう答えてくれたけどＣ君はどうですか？」「Ｃ君は、こう答えてくれたけどみなさんはどうですか？」というように、点から線、線から面へと広げていく。

（3）補助発問

補助発問で、生徒の抽象的な発言を徐々に具体的にしていく。「どれくらい？」「そのような経験があるのですか？「身近なことに置きかえると？」などと聞く。

（4）生徒の話し合い

生徒たちの意見が対立したり、共通化が図れなかったりした場合には、計画を変更する。指導案どおりにいかなくても、生徒の「学び」を最優先にさせる。

（5）板書

板書は、生徒の発言が出るたびに板書するのではなく、生徒の発言した言葉からキーワードを拾って、それを板書する。生徒から同じような発言が出れば、何度も板書に注目させる。

（6）ワークシート

発問を一つに絞る。資料とワークシートを同時に配布して、複数（４～６）の発問について、次から次へと記入させて発表させるようなことはしない。また、「どんなことをしますか？」「どのようにがんばりますか？」などの行為を働きかけるような発問を行わない。

（7）机間指導

机間指導は、教室内を何回も往復し、生徒の書いた文章を一つ一つ確認する。メモ用紙を持参して、心に引かれるキーワードを探したり、全体の文章に目を通したりする。文章が途中であれば、時間を見はからって、もう一度、その生徒のところに行って目を通す。

（8）生徒の指名

生徒を指名する際は、目と目を合わせて指名する。名前を呼ぶときは、掌を上に向けて、円を描くように名前を呼ぶ。必ず「○○さん」「□□君」と呼ぶなど、呼び捨てにしない。

（9）教師の発言

生徒の発言に対して、「なるほど」という発言をたびたび使う。この「なるほど」という発言は、単なる「なるほど」ではなく、生徒の発言に心から感銘を受けたという「なるほど」である。この言葉をかけられた生徒は、「自分の意見を聞いてもらえた」と心から喜ぶ。それは、「なるほど」の言葉がうれしかったのではなく、先生に「分かってもらえた」という気持ちがうれしいからである。

(10) 評価

たった一時間の授業で、生徒の心情や態度は大きく変容しない。人間の心は、短時間で育つものではない。長い時間をかけて、少しずつ変容するものである。道徳授業を実践したからといって、生徒の言動がすぐに変わらない。「異なった考えにふれることができたか」「考えるきっかけをつかんだか」「自分なりに考えを深めたか」などで評価したい。

補足資料

生徒と「ともに語り、ともに考える」道徳授業を目指して

松原　好広（八王子市立陵南中学校）

1　自作資料

遊ぼうよー

中学２年生のとき、私は、「きつくない」「汚くない」「苦しくない」ボランティア活動に参加しようと思いました。ちょうど、学校にボランティアの募集がありました。活動時間は、日曜日の午前中の３時間だけで、病院の中の保育園にいる子どもたちと遊ぶ活動なので、私は気楽に応募しました。

私が、タカちゃんと出会ったのは、その保育園に初めて行ったときでした。タカちゃんは、私のことを「ゆう子お姉ちゃん」と呼んでくれました。私もタカちゃんのことを妹のように思い、「私のことを本当のお姉ちゃんと思ってね！」と言いました。タカちゃんは、週１回、私と遊ぶのが楽しみになったようです。

私が保育園に通い始めて、５回目の日曜日のことです。その日は、タカちゃんの姿を見ることができませんでした。いつもは、タカちゃんが、玄関で私を待っているのに、その日に限ってタカちゃんの姿がありません。点滴がぶら下がっている車をカラカラと引っ張って、元気よく遊ぶタカちゃんの姿がどこにも見えなかったのです。

「タカちゃん、どうしたのかな？」

私のことを慕ってくれているタカちゃんが、私のくる日を忘れるはずがありません。

「もしかしたら、体の具合でも悪いのかな？」

私は、心配になりました。そこに、５歳になるメグちゃんがいました。メグちゃんも、タカちゃんと同様に、私のことを慕ってくれている子です。メグちゃんにたずねました。

「今日は、タカちゃんが見えないけど、どこか具合でも悪いの？」

それまでニコニコとお人形で遊んでいたメグちゃんが、何も言わずに黙って向こうへ行ってしまいました。いつものメグちゃんだったら、「あのね･･･」と教えてくれるのに、なぜかそのときは、何も答えてはくれませんでした。

近くにいた看護師の大木さんが、私に目で合図を送ってきました。私は、大木さんに案内されるまま、控え室の前に行きました。そこで大木さんは、小さな声で、こう言いました。

「タカちゃん、おととい亡くなったの。前から、こうなることは分かっていたのよ。でも、ゆう子さんがきてくれるようになってから、タカちゃんは病気を忘れたように元気になったの。そのときは、もしかしたら･･･と思ったんだけど、神様がタカちゃんを連れて行ってしまったの。タカちゃんは最後まで、『ゆう子お姉ちゃん、早くきてくれないかなー』と言っていたわ。ゆう子お姉さんの話をするときのタカちゃんは、とってもうれしそうだったの。たぶん、ゆう子さんのことを本当のお姉さんだと思っていたのよ。だから、タカちゃんは安心して天国に行ったと思うの。ゆう子さん、本当にありがとうね･･･」

大木さんは、そう言って、私の手を強く握りしめました。私は、タカちゃんが天国に行ったと知って、頭の中が真っ白になりました。

「私の前では、元気に振る舞っていたけれど、本当は、とっても苦しかったんだろうな。つらかったんだろうな。それに、みんなと一緒に学校へ行きたかったんだろうな」

そう思うと、私は、悲しくて涙があふれてきました。こんな顔で、子どもたちの前に出られるわけがありません。すると、大木さんが言いました。

「ゆう子さんには、悲しい思いをさせてしまったわね。でも、ゆう子さんより、あそこで遊んでいる子どもたちは、もっとつらいのよ･･･。ボランティアの人に、子どもたちの病気のことを言ってはいけない規則だけど、メグちゃんだって、来週手術なの。本当のことを言うと、メグちゃんだって、手術しても助かる見込みはわずかしかないの･･･。メグちゃんには、まだタカちゃんのことを知らせていないけれど、薄々は感づいているの。だから、ここのところ一人でお人形と遊んでばかりいるの。

ゆう子さん、早くメグちゃんのところに行って、一緒に遊んであげて･･･」
大木さんは、とてもつらそうにそう話しました。大木さんにそう言われると、私一人が落ち込んではいられないと思いました。でも、涙があふれて、どうしようもありません。
すると、そこにメグちゃんがやってきて、私の手を引っ張って、こう言いました。
「ゆう子お姉ちゃん、遊ぼうよー」
メグちゃんは、いつもと変わらない笑顔でそう言いました。
「そうだね！　一緒に遊ぼうか！」
私は、泣きながら、そう答えました。でも、メグちゃんの笑顔を見ていたら、涙がもっとあふれてきました。そんな私を見て、メグちゃんが言いました。
「私は、ゆう子お姉ちゃんがいるから泣かないよ！　だから、ゆう子お姉ちゃんも泣かないでね！」
メグちゃんにそう言われると、もう涙が止まらなくなりました。
「そうだね！　ゆう子お姉ちゃんは泣かないよ！　だって、メグちゃんと、これからもずっと一緒にいるんだもん！」
そう答えようと思っても、涙が次から次へとこぼれてきて、言葉にはなりません。
だから、私は、何も言えず、メグちゃんのことをずっと抱きしめていました。

2　資料分析表

資料の流れ	主人公の心の動き	発問の構成	指導上の留意点
・主人公が病院内保育園に来たとき	・気軽にやってみよう。 ・子どもと遊べて楽しそう。	・主人公は、どんな気持ちで病院内の保育園にボランティアに来たのですか？	・ボランティア活動に、さほど深い思い入れがなかった主人公の心情にふれる。
・タカちゃんが見当たらなかったとき	・体の具合が悪いのかな。 ・何かあったのかな。	・主人公は、タカちゃんが見当たらなかったとき、どんな気持ちがしましたか。	・タカちゃんが見当たらないことで、不安を感じる主人公の心情にふれる。
・大木さんからタカちゃんの死を知らされたとき	・心が痛い。 ・悲しくてやりきれない。 ・泣きたい。 ・頭がまっしろ。 ・身内の人がなくなったよう。	・主人公は、タカちゃんの死を知らされとき、どんな気持ちでしたか。	・ボランティア活動を続けようと思ったか、やめようと思ったか、揺れるところである。補助発問で、さらに聞きたい。
・メグちゃんから、「遊ぼうよー」と言われたとき	・私よりも子供たちの方が辛い思いをしている。 ・子供たちのために、もっとがんばるから。	・主人公は、涙が止まらずメグちゃんのことを抱きしめていたとき、心の中で、どんなことを思っていましたか。	・言葉にならない主人公の心情をワークシートで深く考えさせたい。

3　道徳学習指導案

（1）主題名　かけがえのない生命　3－（1）

（2）ねらい　かけがえのない生命を尊重する心情を育てる。

（3）資料名　「遊ぼうよー」

（4）展開の大要

	学習活動	発問と予想される生徒の反応 （◎中心発問　●補助発問）	指導上の留意点	教師の動き	
				Ｔ１	Ｔ２
導入	○Ｔ２の先生の紹介を聞く。	○Ｔ２の先生を紹介します。 ・先生の紹介を聞く。	○小学校の児童から「遊んで！」と言われたときの経験談を話す。	・Ｔ２を紹介する。	・小学校の様子を話す。
展開	○資料を読んで、主人公が病院内保育園に来たときの様子を話し合う。	○主人公は、どんな気持ちで病院内の保育園にボランティアに来たのですか？ ・「きつくない」「汚くない」「苦しくない」という気持ち。 ・小さな子と遊んでいればいいという軽い気持ち。	○ボランティア活動に、さほど深い思い入れがなかった主人公の心情にふれる。	・看護師、メグちゃんの部分を読み上げる。	・主人公の部分を読み上げる。
	○生命のはかなさを目の当たりにした主人公の心情に迫る。	○主人公は、タカちゃんの死を知らされとき、どんな気持ちでしたか？ ・あんなに元気そうだったのに信じられない。 ・人の命ははかない。	○人間の生命は、人間関係の中で保たれることを知ったことにふれる。	・発問や補助発問を行う。	・板書する。
	●タカちゃんの死を知った主人公の心情について考える。	●そのとき、主人公は、ボランティア活動を続けようと思いましたか？　それともやめようと思いましたか？ ・タカちゃんの分まで頑張ろうと思った。 ・もうこれ以上、辛い思いをしたくないのでやめようと思った。	●生徒から対立した意見を引き出す。どちらの意見にしてもタカちゃんの死が主人公にとって、衝撃的だったことにふれる。	・発問や補助発問を行う。	・発問、補助発問に答え板書する。
	◎主人公が、メグちゃんから、「遊ぼうよー」と言われたときの心情を考える。	◎主人公は、涙が止まらずメグちゃんのことを抱きしめていたとき、心の中で、どんなことを思っていましたか？ ・自分ばかり悲しんでいてはいけない。 ・メグちゃんのためにも元気を出そう。	◎ねらいに迫るため「いのち」という言葉を使って考えさせる。 ○言葉にならない主人公の心情をワークシートで深く考えさせたい。	・発問や補助発問を行う。 ・机間指導を行う。	・机間指導を行う。
終末	○歌手・森山良子さんの「涙そうそう」を聴く。	○沖縄の方言で「涙が止まらない」ということを何と言うでしょう？ ・「涙そうそう」	○歌を聴くことを通して余韻を残して終わりたい。	・歌の紹介と補足説明を行う。	・授業の感想を述べる。

（5）評価　かけがえのない生命について、自分なりに考えを深めたか。

4　授業記録「Ｔ１（私）Ｔ２（小学校教師）」

Ｔ１　主人公は、タカちゃんの死を知らされとき、どんな気持ちでしたか？

Ｓ１　悲しくてどうしようもない。

Ｔ１　どれぐらい、悲しくてどうしようもない気持ちだったのですか？

Ｓ２　とても悲しくて･･･。

Ｔ１　例えば、テストで思ったような点が取れなかったときのような気持ちですか？

Ｓ２　もっと悲しい気持ち。泣きたくなるような気持ち。

Ｔ４　どうしようもない悲しさということですね。他の人はどうですか？

Ｓ３　頭が真っ白になるような悲しさ。

Ｓ４　何時間も泣きたくなるような悲しみ。

Ｔ１　なるほど。他の人はどうですか？

Ｓ５　悲しくて、泣きたくて、後悔している。

Ｔ１　身近なこととして、具体的に説明してくれますか？

Ｓ５　お母さんとか、妹とか、身近にいる人を失ったときの気持ち。

Ｔ１　でも、主人公にとってタカちゃんは家族ではありませんよね？

Ｓ５　主人公にとっては、タカちゃんのことが家族同様になっていた。

Ｔ１　１ヶ月ちょっとで、家族同様のように思えるのですか？

Ｓ５　タカちゃんが、主人公のことを本当のお姉ちゃんのように思ってくれたから、主人公もタカちゃんのことを本当の妹のように思えるようになった。

Ｔ１　他の人はどうですか？

Ｓ６　言葉ではうまく言えませんが、初めてタカちゃんと会ったときから、まるで本当の妹のような接し方をしていた。

Ｔ１　人と人とのかかわり方で、こんなにも気持ちのもち方に変化が生まれるのですね。では、主人公は、このあと、ボランティア活動を続けようと思いましたか？

Ｓ７　このまま続けて、他の子どもたちのことを幸せにしよう！

Ｔ１　なぜ、そう思ったのですか？

Ｓ７　主人公は、ボランティアの時間、せめて他の子どもたちのことを幸せにしてあげたいと思ったから。

Ｔ１　他の人はどうですか？

Ｓ８　「タカちゃんにしてあげられなかったことを、今度は他の子どもたちにしてあげよう！」と思った。

Ｔ１　なるほど、これからも続けようと思ったのですね。では、Ｔ２の先生にも聞いてみましょう。先生はどうですか？

Ｔ２　先生は、自分がかかわった人たちが亡くなってしまったということは、大変なショックだったと思います。先生だったら、もうこれ以上、続けたくないと思ってしまいます。

Ｓ９　私もＴ２の先生と同じで、タカちゃんが死んでしまった悲しみをこれ以上遭遇したくないと思いました。

Ｔ１　同じ考えの人はいますか？

Ｓ10　もう二度と家族の人の死に合いたくない！もうやめたい！　もういたくない！　だから、やめよう！

Ｓ11　気軽な気持ちで始めたボランティアだったけれど、こんな気持ちでかかわってはいけない。

Ｔ１　なるほど、だからやめようと思ったのですね。

Ｓ12　でも、主人公のことを本当のお姉さんと思っている子もいたのだから、これでやめてしまったら、他の子が悲しんでしまう。

Ｔ１　ということは、やめられなかったということですか？

Ｓ12　このままやめてしまったら、タカちゃんの悲しみを背負ったまま生きていかなければならない。だからせめて、続けることでその悲しみから救われる。

Ｔ１　悲しみを背負ったまま生きていかなければならないというのは、すごくいい表現ですね。Ｔ２の先生は、今のそれぞれの発言を聞いて、どんなことを感じましたか？

Ｔ２　「生命」について、みんなすごく考えていることが伝わってきました。

Ｔ１　結局、続けるにしても、やめるにしても、どちらの考えにしても、それぞれの人が、「生命」について深く考えているということなのですね。そして、大切なことは、主人公は、最初にボランティアに来たころとは、まったく「生命」に対する考え方が変わってしまったということなのですね。みんなの意見を聞いて、そのことがとてもよく分かりました。

Ｓ全　多くの生徒が頷く。

Ｔ１　では、主人公は、涙が止まらずメグちゃんのことを抱きしめていたとき、心の中で、どんなことを思っていましたか？　ワークシートに記入してください。

Ｓ全　ワークシートに記入する。（約１５分間）

Ｔ１　何人かの人に発表してもらいます。Ｓ13さん読んで下さい。

Ｓ13　メグちゃんより、私の方ができることたくさんあるのに･･･。保育園の子供より、私の方が何でも知っているのに･･･。たった小さな子供たちと遊ぶだけで、自分のことを励ましてくれて、私は本当に幸せだと思う。もしかしたら、またタカちゃんみたいに悲しい出来事になるかもしれない。本当は、もう二度と、そんなことに出会いたくない。でも、私より、ここにいる子供たちは、毎日つらかったり、苦しかったりしているのだから、今、自分が子供たちにしてあげられること、どんなに小さいことでもやってあげたい。だから、ボランティアはやめないで、子供たちのそばにいて、笑っていてあげたい。

Ｔ１　どうもありがとう。では、次に、Ｓ14さん、お願いします。

Ｓ14　子供たちと遊べて楽しそう･･･。子供たちに何かを伝えたい･･･。そんな思いで参加したボランティア活動だったのに、タカちゃんの死から逆に子供たちに「命の大切さ」を教えてもらった。メグちゃんもタカちゃんも、「命をなくしてしまうかもしれない」と知っていながら、私に迷惑をかけたくないという思いから明るく接してくれた。でも、本当は、不安で不安でしょうがなかったに違いない。タカちゃんには、何もしてあげられなかったけれど、私はタカちゃんのことをずっと忘れない。もしかしたら、命をなくしてしまうかもしれないメグちゃんや他の子供たちにも、自分が今できることを精一杯のことをするから、いつまでも最高の笑顔でいてほしい。

※ワークシートを読み上げたＳ14 の生徒は、読み上げる途中、感極まって思わず涙を流してしまった。その生徒の涙に誘われて、他の生徒も深い感動を覚えるなど、予想外の展開となった。終末時には、「涙、そうそう」ができるまでのエピソードを紹介してＣＤを流した。曲が流れ始めると、あちらこちらですすり泣く声が聞かれ、余韻をもって授業を終わらせることができた。

5　授業後、生徒がＴ２の小学校教師へ綴ったお礼の手紙

その後、生徒は、Ｔ２の小学校教師に「お礼の手紙」を綴った。手紙から、Ｓ14の生徒は、資料を考えながらも、これまでの自分を振り返っていたことが確認された。

Ｓ14の生徒が綴った手紙（ワークシートを読み上げ時に涙を流した生徒）

先日は、学校まで授業に来ていただき、ありがとうございました。内容が、命についてということで、思わず泣いてしまいました。でも、とても貴重な体験でした。

私が、小学校２年生だったとき、私の祖母が亡くなりました。じつは、私は、そのときのことを思い出して、涙が出てしまったのです。私は、今でも、その日のことを鮮明に覚えています。

自分の部屋で身支度をしていたとき、目を赤くした母が私の部屋に入ってきました。そして、「今朝、おばあちゃんが亡くなったのよ」と言ったのです。その話を聞いて、私は涙が止まらなかったことを覚えています。小さいときから、「おばあちゃん！　おばあちゃん！」と言って、いつも「すごろく」をして遊んでもらっていたからです。祖母が亡くなったということは、小学校２年生の私には、大きすぎる事実でした。そのようなこともあり、「遊ぼうよー」の内容は、私の心の中に、スーッと吸い込まれていきました。本当に大切だったことを改めて気付かせてくれた授業に、心から感謝したいと思います。